

「結果」の語誌

● 高橋 圭子*・東泉 裕子**

1. はじめに

現代日本語における「結果」という語の意味は、例えば新村編（2018）では（1）のよう1に説明されている。

（1） ①実を結ぶこと。結んだ実。結実。

②〔哲〕(effect) 原因によって生み出されたもの。また、ある行為によって生じたもの。その生み出された状態。副詞的にも用いる。「実験の結果」「よい結果をもたらす」「話し合いの結果解決する」⇔原因

（1）の記述から、「結果」の語自体には良し悪しの意味は含まれておらず、いずれかの意味、例えば「よい結果」という意味を表す場合には「よい」という修飾表現を追加する必要があることがわかる。

その一方で、「結果を出す」などの定型表現においては、修飾表現を伴うことなく「良い結果」という意味を表すことが多い2。例えば、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)』には（2）のような用例がある。

（2） いくら努力しましたがいっても、結果を出せなければ認められません。

BCCWJ、OC12_04342、1810、特定目的・知恵袋、2008年3

*跡見学園女子大学文学部コミュニケーション文化学科兼任講師 **明治大学他兼任講師

1 辞書の用例の「一」には当該の語を補う。また、下線は稿者による。以下同じ。

2 修飾表現を伴うことなく「良い結果」という意味を表す表現には、他に、「結果が出る」「結果を残す」「結果を求める」などもある。しかし、定型化の度合いと用例数では「結果を出す」が他を圧倒しているため、本稿では「結果を出す」を分析対象とする。

3 BCCWJからの用例には、順に、サンプルID、開始位置、レジスター、発表年などを付す。下線は稿者による。以下同じ。

本稿では、(2) のような「結果を出す」を【結果を出す】と表記する。また、「良い結果」という意味を肯定的、「悪い結果」という意味を否定的、そのいずれでもない意味を中立的と呼ぶ。そして、「結果」の語誌をたどり、肯定的・否定的・中立的意味の有無とその変化の過程を検討し、現代日本語の【結果を出す】における肯定的意味の獲得過程を探る。

2. 先行研究

森岡 (1991) によれば、「結果」という語は翻訳語として近代初期に成立したという。北原他編 (2001) には、(3) がその初出例として挙げられている。原著は Mill (1859) であり、原語は ‘result’ である。なお、諸橋編 (2018) によれば、「果」「菓」は同じ漢字の異体字である。

(3) 人民の情と合和して、かかる結果となりしなり。

中村正直訳 (1872) 『自由之理』⁴

「結果」という語をめぐる先行研究には、見坊 (1988)、坂梨 (2011)、三枝 (2013)、鳴海 (2014) などがあり、名詞から副詞ないし接続詞的用法への拡張に注目したものが多い。高橋・東泉 (2018) はその一つであり、近現代のコーパスから「結果」の用例を分析し、用法拡張の過程をたどっている。そして、(4) のような例を挙げ、「結果」の実質的意味の希薄化を指摘している。つまり、このような「結果」は肯定的・否定的意味のいずれも表していない。

(4) 退職後はまず役所に行き、国民保険や国民年金の手続きをしましょう。(略) 市民税は時期になれば勝手に自宅に支払い用の綴りが届きます。結果、届く綴りは国民年金、国民健康保険、市民税の3種です。

BCCWJ、OC03_01282、2210、特定目的・知恵袋、2005年

しかし、【結果を出す】のような「結果」に触れた研究は、管見ではまだない。

4 国文学研究資料館 (2012) では漢字カタカナ表記である。

一方、中国語・韓国語における「結果」という語は、異なる様相を呈している。Chang (2015)、Yang (2019) によれば、中国語の「結果 *jiieguo*」は14世紀頃から「最後の局面に至る」という否定的意味を持つようになり、現代における談話標識的用法では「予想外に」という意味で用いられているという。また、Rhee (2019) によれば、韓国語の「結果 *kyelkwa*」は「実を結ぶ」という文字通りの意味から、11世紀頃には「悟りを開き仏の道に入る」というメタファーで肯定的に用いられるようになり、現代の抽象的・一般的な「結果」の意味に至っているという。

3. 近代以前の「結果」

本節では、近代以前の日本語において、「結果」という表現が用いられていた可能性について検討しておく。「国文学研究資料館 日本古典文学大系本文データベース」「JapanKnowledge Lib 新編日本古典文学全集」（それぞれ、大系、新全集と略記する）を用い、「結果」「結菓」の文字列検索を行った⁵。得られた用例数の一覧を表1に示す。

表1 大系・新全集における文字列「結果」「結菓」の用例数

成立年	作品名	著者	用例数	出典
797	三教指帰	空海	1	大系
835	性霊集	空海	1	大系
14~15世紀頃	酒伝童子絵	不詳	1	新全集
1708	傾城反魂香	近松門左衛門	1	大系
1807-1811	椿説弓張月	曲亭馬琴	3	大系
1829-1832	近世説美少年録	曲亭馬琴	4	新全集
1832	しりうごと	不詳	1	新全集

これらのうち、最古の例は(5)の2例であり、ともに「悟りを開き仏の道に入る」という肯定的意味を表している。

(5) a. 于時。有縁之衆。…榮枯萎枝。授結菓期。

時に有縁の衆は…枯れ萎める枝を榮やかして結菓の期を授く。

空海 (797) 『三教指帰』 大系

5 「結果」が漢語由来であることから、「東京大学史料編纂所 古記録フルテキストデータベース」からも用例が見出されるかと考え検索したが、用例は皆無であった。

b. 雲雨覆澍而解煩、草木滋茂而結果。

雲雨覆^{そそ}ひ澍いで煩を解き、草木滋く茂^{このみ}して果を結ぶ。

空海 (835) 『性靈集』 大系

次に、「酒伝童子絵」「傾城反魂香」に見られる例はいずれも「かくなは」とよみ、紐を結んだ形をした揚げ菓子、また、その菓子の形のように縦横に切り結ぶこと、という意味と注されている。本稿で検討する「結果」とは同形異義語であるかと思われるが、詳細な探究は稿を改めたい⁶。

19世紀、近世後期に見られる8例は、(6)に示すように、「しまいつく」「おしかたづく」「かたづく」とのよみが付されている。これは、中国の白話小説の影響かと考えられる。例えば、(7)は、『水滸伝』の日本における注釈書の、「結果」の語釈の部分である。馬琴は漢籍の膨大な知識で知られており、『しりうごと』も学者による著作と推測されている。

(6) a. まづ這奴を結果^{しまいつけ}て、路銀を奪ひ、…

曲亭馬琴 (1807-1811) 『椿説弓張月』 大系

b. 先その陶奴を結果^{おしかたづけ}て、爾後阿夏^{そのち おなつ}を殺すべし

曲亭馬琴 (1829-1832) 『近世説美少年録』 新全集

c. あまつさへ近ごろは、小札の筥^{はこ}も図も何処かの隅へおし結果^{かたづけ}て、…

作者不詳 (1832) 『しりうごと』 新全集

(7) モトハ佛語ナリソレヨリ轉シテ萬事物事ノシマイヲツケ片付ルコトニナルナリ

陶山南濤 (1757) 『忠義水滸伝解』

しかし、「結果」のこのようなよみと意味は、用例数の少なさから、一部の知識人に限られたものであったと推測される。(5)は肯定的、(6)は否定的意味で用いられている

6 高橋・東泉 (2018) では(6)のような例も別語として処理していたが、今回の調査で同じ語の変化として扱うべきであることがわかった。「かくなは」については、今回は明らかにできなかったが、さらに探究を続けたい。

7 傍線は原文に付されたものである。

が、それぞれ仏典や漢籍の用法を踏襲したものであり、「結果」という語は近代以前の日本語の語彙体系に定着してはいなかったと考えられる。

4. 近代における「結果」

近代に入ると、(3)の初出以降、「結果」という語の使用例はめざましく増加する(高橋・東泉2018)。本節では、明治・大正・昭和前期における「結果」という語の肯定的・否定的・中立的意味について検討する。『日本語歴史コーパス(The Corpus of Historical Japanese: CHJ) 明治・大正編』(国立国語研究所2018・2019・2021)を、コーパス検索アプリケーション「中納言」(バージョン2.5.2、データバージョン2021.03)を用いて検索した。短単位検索モードを使用し、前接語に注目するため「キーの条件」を指定せずに、キーから後方の1語を語彙素読み「ケッカ」・語彙素「結果」という条件で検索を行った。

得られた用例数は、計4,906例であるが⁸、【結果を出す】の用例は皆無であった。

そこで、「結果」の修飾表現のうち、形容詞、接頭辞、名詞に注目し、肯定的・否定的の意味に分類し、表2にまとめた。具体的用例は(9)に示すとおりである。

表2 CHJ 明治・大正編における「結果」の修飾表現⁹

肯定的			否定的		
表現	用例数	%	表現	用例数	%
好	118	53.4	悪	23	10.4
良	13	5.9	不	20	9.0
良い	13	6.2	恐ろしい	6	2.7
面白い	11	5.0	悪い	4	1.8
善	2	0.9	乏しい	3	1.4
楽しい	1	0.5	由々しい	1	0.5
思わしい	1	0.5	無	1	0.5
明るい	1	0.5	憂	1	0.5
			悪い	1	0.5
			痛ましい	1	0.5
計	160	72.4	計	61	27.6

8 CHJ 明治・大正編は、I 雑誌、II 教科書、III 明治初期口語資料、IV 近代小説から成り、それぞれの「結果」の用例数は、4827例、37例、0例、42例である。

9 「表現」については、表記は現代語の漢字、活用形は現代語で代表させる(例えば、「良い」は「良い」「よい」「いい」「良い」「好い」「良き」を含む)。「%」は小数点第二位で四捨五入した。

(9) a. 實に好結果あるは疑なし。

CHJ、60M 女雑1894_42005、61590、『女学雑誌』、1894年¹⁰

b. 之より生ずる悪結果も、亦極めて大ならん。

CHJ、60M 太陽1901_03046、37500、『太陽』、1901年

c. 所で出来上つた所はあの通り全く不結果である。今回の出張は

CHJ、60M 太陽1917_12044、4790、『太陽』、1917年

d. 今回の出張は無結果で終る様な事になりはせぬかと憂へた

CHJ、60M 太陽1901_01036、29220、『太陽』、1901年

表2より、(9a)のような肯定的意味の修飾表現は、(9b)・(9c)・(9d)のような否定的意味の修飾表現の約3倍に上ることが読み取れる。近代語における「結果」は、肯定的意味の修飾表現と共起することが多く、肯定的イメージを持っていたと言えるだろう。また、(9c)の「不」、(9d)の「無」は打消の意の接頭辞であり、文字通りには「結果ではない」「結果がない」という意味になる。これらが「悪い結果」という否定的意味を表すということは、とりもなおさず、「結果」という語自体に肯定的意味があることになるだろう。

近代における「結果」という語が、なぜ、このような肯定的意味を獲得したのか、詳しい経緯は現時点ではわからない。この解明のためには、例えば「効果」のように中立的意味から肯定的意味を獲得した語の影響や、逆に、「結局」「揚げ句(の果てに)」のように否定的意味を持つ表現との関連などを検証する必要があるだろう。また、今回は「望む結果」「害する結果」などの動詞を含めなかったが、「結果」に前接する動詞にも肯定的・否定的意味という点について偏りがあるのかを調査する必要がある。今後の課題としたい。

5. 現代における「結果」

本節では、1950年代以降の「結果」という語の肯定的・否定的・中立的意味について検討する。4節のCHJと同様に、コーパス検索アプリケーション「中納言」を使用し、国立国語研究所コーパス開発センターによる現代語の各種コーパスを検索した。短単位検索モードを用い、「キーの条件」を指定せずに、キーから後方の1語を語彙素読み「ケッカ」・

¹⁰ CHJからの用例には、順に、サンプルID、開始位置、誌名、出版年などを付す。下線は稿者による。以下同じ。

語彙素「結果」という条件で検索した。表3は、使用コーパスの概要および「結果」の用例数である。

表3 現代語コーパスにおける「結果」の用例数

コーパス：略称 ¹¹ (参考文献)	収録時期	中納言バージョン データバージョン	種類	総語数	「結果」 用例数
昭和話し言葉コーパス：昭和 (丸山他2021)	1952～1974	中納言バージョン 2.4.2 データバージョン 2018.02	独話	180,664	82
			会話	348,458	9
現日研・職場談話コーパス：職場 (現代日本語研究会編2011)	1993、 1999～2000	中納言バージョン 2.4.2 データバージョン 2018.03	談話	248,677	20
名大会話コーパス：名大 (藤村他2011)	2001～2003	中納言バージョン 2.4.2 データバージョン 2018.02	会話	1,131,891	34
日本語話し言葉コーパス：CSJ	1999～2003	中納言バージョン 2.4.2 データバージョン 2018.01	独話	7,375,299	6,091
			対話	149,826	17
日本語日常会話コーパスモニター 公開版：CEJC (小磯他2020)	2016～2018 ¹²	中納言バージョン 2.4.5 データバージョン 2021.03	日常 会話	1,247,791	63
現代日本語書き言葉 均衡コーパス： BCCWJ	1976～2008	中納言バージョン 2.4.5 データバージョン 1.1	書き 言葉	124,100,964	28,009

このうち、昭和、職場、名大の3コーパスには、【結果を出す】の用例はなく、肯定的・否定的意味の修飾表現を伴う用例もなかった。これには、コーパスサイズによる用例数の限界と収録時期の、少なくとも2通りの要因があると考えられる。収録時期については、後述する。

CEJCにおける「結果」の修飾表現は、「良い」2例が見られた。CSJ、BCCWJにおける「結果」の修飾表現は、それぞれ、表4・表5のようにまとめられる。

11 昭和・職場・名大の略称は本稿による。CSJ (Corpus of Spontaneous Japanese)・CEJC (Corpus of Everyday Japanese Conversation) および既述のCHJ・BCCWJは国立国語研究所コーパス開発センターによる略称である。

12 「2016年4月～2018年度(予定)」(田中他2018, p.4)に基づく。

表4 CSJにおける「結果」の修飾表現

肯定的意味			否定的意味		
修飾表現	用例数	%	修飾表現	用例数	%
良い	91	65.0	低い	10	7.1
高い	6	4.3	悪い	5	3.6
面白い	5	3.6	難しい	2	1.4
近い	4	2.9	さびしい	1	0.7
正しい	2	1.4	良くない	1	0.7
大きい	2	1.4	情けない	1	0.7
嬉しい	2	1.4			
著しい	1	0.7			
思わしい	1	0.7			
多い	1	0.7			
凄い	1	0.7			
興味深い	1	0.7			
遜色のない	1	0.7			
宜しい	1	0.7			
楽しい	1	0.7			
計	120	85.7	計	20	14.3

表5 BCCWJにおける「結果」の修飾表現

肯定的意味			否定的意味		
修飾表現	用例数	%	修飾表現	用例数	%
良い	269	49.7	悪い	68	12.6
好	44	8.1	恐ろしい	13	2.4
好ましい	16	3.0	厳しい	8	1.5
面白い	12	2.2	ひどい	8	1.5
正しい	12	2.2	悪しき	4	0.7
興味深い	10	1.9	悲しい	4	0.7
望ましい	10	1.9	悔しい	3	0.6
素晴らしい	8	1.5	さびしい	3	0.6
思わしい	3	0.6	まずい	3	0.6
はかばかしい	3	0.6	腹立たしい	2	0.4

嬉しい	2	0.4	あっけない	2	0.4
高い	2	0.4	悪-	2	0.4
目覚ましい	2	0.4	きつい	1	0.2
めでたい	1	0.2	だらしない	1	0.2
甘い	1	0.2	暗い	1	0.2
喜ばしい	1	0.2	忌まわしい	1	0.2
輝かしい	1	0.2	苦しい	1	0.2
宜しい	1	0.2	むなしい	1	0.2
うまい	1	0.2	菌がゆい	1	0.2
深い	1	0.2	手ひどい	1	0.2
濃い	1	0.2	心もとない	1	0.2
美しい	1	0.2	惜しい	1	0.2
おいしい	1	0.2	恥ずかしい	1	0.2
芳しい	1	0.2	低い	1	0.2
一大	1	0.2	ほど遠い	1	0.2
			こわい	1	0.2
			乏しい	1	0.2
			不甲斐ない	1	0.2
計	405	74.9	計	136	25.1

CSJ、CEJC、BCCWJいずれのコーパスにおいても、近代語と同様、「結果」は肯定的意味の修飾表現と共起することが多く、肯定的イメージの語であると言えるだろう。ここから、肯定的意味の修飾表現と伴うことなく肯定的意味を表す【結果を出す】のような表現が生じたことは自然であると言えるだろう。

【結果を出す】の用例は、CSJに7例、BCCWJに107例見られる。これらの中で最も早い用例は(10)である。

- (10) やはりこの附帯決議というものがもっと尊重され、そして一步でもそれに対して結果を出しているというような点を期待しまして、今後も、附帯決議を出してもさっぱり実績が出ないということのないようになんばっていただきたいと思ひます。

BCCWJ、OM25_00006、185190、特定目的・国会会議録、第94回国会、1981年

ただし、今回の調査で得られた用例は(10)以外、すべて2000年以降のものであった。BCCWJの【結果を出す】の用例数を、年代とレジスターごとにまとめたものが表6である。

表6 BCCWJにおける【結果を出す】の用例数

レジスター	出版			図書館	特定目的							
	雑誌	書籍	新聞	書籍	ブログ	ベストセラー	広報紙	国会会議録	知恵袋	白書	法律	教科書
1976-1980	/	/	/	/	/	0	/	0	/	0	0	/
1981-1985	/	/	/	/	/	0	/	1	/	0	0	/
1986-1990	/	/	/	0	/	0	/	0	/	0	0	/
1991-1995	/	/	/	0	/	0	/	0	/	0	0	/
1996-2000	/	/	/	0	/	2	/	0	/	0	0	/
2001-2008	16	24	4	7	41	0	3	0	8	0	0	0
計	16	24	4	7	41	2	3	1	8	0	0	0

レジスターによりデータの収録期間が異なるため経年変化の分析はできないが、比較的長期間のデータが見られる「図書館・書籍」、「特定目的・ベストセラー」においても、2000年より以前の用例は見られない。これは、先に見た話し言葉のコーパスにおける、【結果を出す】の用例数と収録時期の観察結果とも矛盾しない。

また、【結果を出す】の用例はスポーツやビジネスといった分野に多く観察される。CSJでは7例中3例が(11a)のようにスポーツであり、BCCWJでは107例中62例が(11b)のようにスポーツ、33例が(11c)のようにビジネス関連である¹³。これらは、競争の結果が明らかになりやすい分野である。

(11) a. ででもイチローの場合もうまもなく始まってから二三か月の間で結果を出し何と二千一年のオールスターではファン投票一位に選ばれ

CSJ、S09M1528、23690、独話・模擬講演、男、30-34歳¹⁴

13 スポーツの用例数には、競輪・競馬・囲碁・消防競技各1例を含む。

14 CSJの用例には、順に、講演ID、開始位置、タイプ、話者情報などを記す。下線は稿者による。

- b. 一昨年の優勝の時は入団1年目で、結果を出せず悔しい思いをしたが、昨年6月十五日のヤクルト戦で初勝利。

BCCWJ、PN5j_00021、55830、出版・新聞、『京都新聞』、2005年

- c. 仕事をするということの意味がそれぞれ違う時代。多くの人をひとつにまとめて結果を出すのは大変だっただろう。

BCCWJ、PB16_00171、1460、出版・書籍、伊藤愛子
『プロ社員が組織を動かす』アスペクト、2001年

6. おわりに

本稿では、「結果」の語誌をたどり、(i) 近世までは中国大陸や朝鮮半島の影響が一部に見られたものの日本語の語彙体系に定着し普及するのは近代以降であること、(ii) 近代においては肯定的意味を表す表現が前接して肯定的意味を表す文脈での用例が多いこと、(iii) 2000年以降は修飾表現を伴うことなく肯定的意味を表す「結果を出す」という表現が広まってきたこと、以上の3点を明らかにした。

このような変化を促した要因については、さらなる検証が必要である¹⁵。

謝辞

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金による基盤研究(C)「英語破格構文の歴史的発達と談話基盤性について—構文化の時間的・空間的拡がり—」(研究代表：柴崎礼士郎、課題番号：19K00693)、同「漢字文化圏における漢語の語用論的標識化」(研究代表：高橋圭子、課題番号：20K00650)の助成を受けています。

参考文献

- 見坊豪紀(1988)「結果(副詞的用法)」『現代日本語用例全集2』、pp.41-42、筑摩書房
現代日本語研究会編(2011)『合本 女性のことば・男性のことば(職場編)』ひつじ書房
小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉
(2020)『『日本語日常会話コーパス』モニター版の設計・評価・予備的分析』『国立国語研究所論集』
18、pp.17-33. 国立国語研究所<<http://doi.org/10.15084/00002540>> (2022年1月4日確認)

15 2000年以降は、新自由主義的傾向が進み、能力主義・成果主義が謳われるようになった時期である。
【結果を出す】の増加には、あるいはこのような社会情勢が関係しているかもしれない。

- 国立国語研究所 (2018) 『日本語歴史コーパス 明治・大正編Ⅱ教科書』 <https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/meiji_taisho.html#kyokasho> (2022年1月1日確認)
- 国立国語研究所 (2019) 『日本語歴史コーパス明治・大正編Ⅰ雑誌』 <https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/meiji_taisho.html#zasshi> (2022年1月1日確認)
- 国立国語研究所 (2021) 『日本語歴史コーパス明治・大正編Ⅳ近代小説』 <https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/meiji_taisho.html#shosetsu> (2022年1月1日確認)
- 三枝令子 (2013) 「名詞から副詞、接続詞へ」『一橋大学国際教育センター紀要』、4、pp.49-61. <<https://doi.org/10.15057/26706>> (2022年1月4日確認)
- 坂梨隆三 (2011) 「『おられる』の補遺と『ある意味』『ある種』の用例一付、『結果』『正直』—」『帝京日本文化論集』18、pp.1-33.
- 高橋圭子・東泉裕子 (2018) 「名詞『結果』の用法の拡張：近代語および現代語コーパスの用例より」『社会言語科学』21-1、pp.255-270.
- 田中弥生・柏野和佳子・角田ゆかり・伝康晴・小磯花絵 (2018) 「『日本語日常会話コーパス』の構築—個人密着法に基づく会話の収録—」(国立国語研究所「日常会話コーパス」プロジェクト報告書2) 国立国語研究所 <<https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/report/report02.pdf>> (2022年1月4日確認)
- 鳴海伸一 (2014) 「漢語形容動詞・副詞の品詞性と用法変化：通時的観点からみた近現代の特徴」新野直哉編『近現代日本語における新語・新用法の研究』国立国語研究所共同研究報告13-03、pp.56-75. <<http://doi.org/10.15084/00002748>> (2022年1月4日確認)
- 藤村逸子・大曾美恵子・大島ディヴィッド義和 (2011) 「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法：データの収集と分析』pp.43-72、ひつじ書房
- 丸山岳彦・西川賢哉・田嶋明日香・小磯花絵 (2021) 「『昭和話し言葉コーパス』の設計・構築と分析(2)：コーパスの構成とメタデータの設計」『言語処理学会第27回年次大会発表論文集』pp.86-90.
- 森岡健二 (1991) 『改訂近代語の成立—語彙編—』明治書院
- Chang, Miao-Hsia. (2015) Two counter-expectation markers in Chinese. In Javier E. Díaz-Vera (ed.), *Metaphor and Metonymy across Time and Cultures*, pp. 141-169. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Rhee, Seongha. (2019) From object to text to stance: The case of *kyelkwa* in Korean. In *Papers from the 20th National Conference of the Japanese Cognitive Linguistics Association*, pp. 471-476. The Japanese Cognitive Linguistics Association.
- Yang, Wenjiang. (2019) On the diachronic development of Chinese *jiieguo* “result” as a pragmatic marker. In *Papers from the 20th National Conference of the Japanese Cognitive Linguistics Association*, pp. 465-

470. The Japanese Cognitive Linguistics Association.

関連 URL

国文学研究資料館 日本古典文学大系本文データベース

<<http://base1.nijl.ac.jp/~nkbthdb>> (2022年1月4日確認)

国立国語研究所コーパス開発センター

<http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/> (2022年1月4日確認)

東京大学史料編纂所 古記録フルテキストデータベース

<<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>> (2022年1月4日確認)

Japan Knowledge Lib

<<http://japanknowledge.com/library/>> (2022年1月4日確認)

調査資料

北原保雄他 (編) (2001) 『日本国語大辞典 第二版』小学館

新村出 (編) (2018) 『広辞苑 第七版』岩波書店

陶山南濤 (1757) 「忠義水滸伝解」 古典研究会編 (1970) 『唐話辞書類集 第三集』汲古書院

中村正直 (訳) (1872) 「自由之理」 国文学研究資料館 (2012) 『リプリント日本近代文学236 自由之理』

平凡社

諸橋轍次 (編) ([1943] 2018) 『大漢和辞典』大修館書店

Mill, John Stuart. (1859) *On Liberty*. In Himmelfarb, Gertrude (ed.), (1974) Harmondsworth, Middlesex :

Penguin.